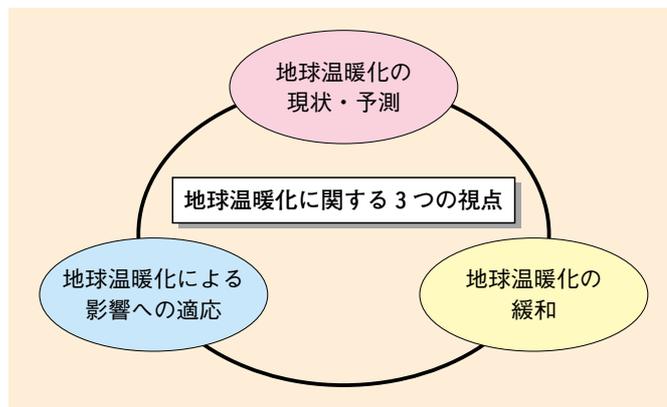


地球温暖化は、わたしたちの暮らしに大きな影響を与える。温暖化については、①地球温暖化の現状と将来予測、②自然災害の増加など地球温暖化がもたらす影響を回避・低減する「適応」、③温室効果ガス排出量の削減による地球温暖化の「緩和」の3つの視点から議論されている。そこで、本白書第I部においても、特に暮らしの観点からこの3つの視点に基づいて整理、分析を行った。



まず、第1章においては、①地球温暖化の現状と将来予測、②地球温暖化がもたらす影響、③地球温暖化の緩和に向けた暮らしにおける取組みの必要性について概要を説明している。次に、第2章においては、3つの視点の中でも特に地球温暖化の緩和を取り上げ、国土交通分野における課題について詳しく分析している。最後に、第3章においては、気象庁や国土地理院を含めた国土交通省の取組みの方向について、3つの視点に基づいて整理している。

第1章 地球温暖化とわたしたちの暮らし	第2章 暮らしにおける地球温暖化の緩和に向けた課題	第3章 地球温暖化時代における国土交通行政の方向
<p>第1節 地球温暖化の現状と将来予測</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界全体でこの100年で0.74度平均気温が上昇。 ○最悪のシナリオでは今後100年に、4度気温が上昇する可能性。 	<p>第1節 運輸分野における課題</p> <p>I 国内輸送</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自家用乗用車の走行距離・燃費の動向を分析。低燃費車普及、エコドライブが重要。 ○交通流の動向を分析。渋滞対策・高速道路の利用促進が重要。 ○公共交通機関の利用動向を分析。地域の公共交通機関の活性化・再生が重要。 ○物流の動向を分析。貨物自動車の輸送効率化、モーダルシフトの促進、消費者を含めた対応が重要。 <p>II 国際輸送</p> <ul style="list-style-type: none"> ○京都議定書の対象外である国際航空・外航海運が国際的な論点。 	<p>第1節 地球温暖化がもたらす気候変動の監視・予測</p> <ul style="list-style-type: none"> ○気候・温室効果ガス・海洋等の観測や予測により、世界的な議論に貢献。
<p>第2節 地球温暖化による暮らしへの影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ○温暖化に伴い集中豪雨が増加し、洪水や土砂災害の危険性が高まる可能性。 ○年ごとの降水量の変動幅の増大と、降雪量の減少により、渇水被害の危険性が高まる可能性。 ○海面水位の上昇と熱帯低気圧の強度の増大により、高潮災害、海岸侵食の危険性が高まる可能性。 	<p>第2節 住宅・建築分野における課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○建物のエネルギー消費状況を分析。建物本体の省エネ性能の向上が重要。 ○建物の用途別や業種別のエネルギー消費量を分析。設備機器の効率化や使い方の工夫による省エネの推進も必要。 ○建設から廃棄までのトータルでのエネルギー消費量を分析。長期にわたって使用可能で環境性能にも優れた住宅の普及が重要。 	<p>第2節 気候変動がもたらす影響への適応に向けた取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地球温暖化による災害リスクの増加に対する適応策が必要。我が国においても検討を実施。
<p>第3節 暮らしにおける取組みの必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全世界の温室効果ガス排出量は約30年間で約7割増加。日本での温室効果ガスの排出量は1990年から6.4%増加。 ○業務部門と家庭部門が大きく増加。運輸部門も大きく増加したが、近年は減少。 	<p>第3節 都市・地域づくりにおける課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市街地が拡散した都市ほど、自動車からのCO₂排出量が多くなることを分析。都市機能の集約が重要。 ○都市緑化の効果等を分析。都市の熱環境の改善を通じたCO₂の削減が必要。 ○地区・街区レベルでのエネルギーの効率的な利用の効果等を分析。都市のエネルギー環境の改善を通じたCO₂の削減が必要。 	<p>第3節 地球温暖化の緩和に向けた取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○京都議定書の目標達成とともに、中長期的な課題に向けた取組みを実施。

凡例 ピンク : 温暖化の現状・予測 水色 : 温暖化による影響への適応 黄色 : 温暖化の緩和